

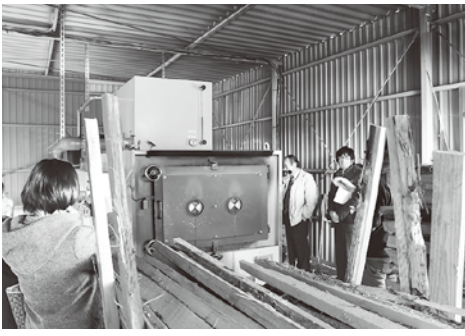
木質ボイラーによる うなぎの養殖

木質ボイラーを利用したうなぎの養殖を行う会社を視察しました。

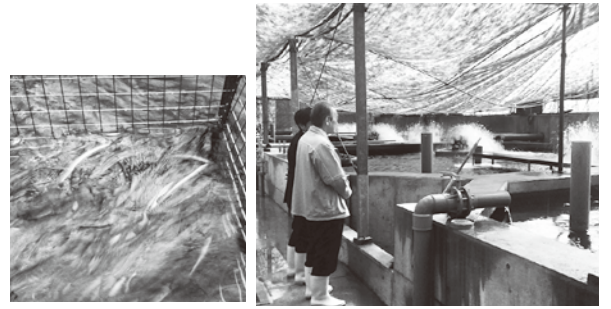
こちらは埼玉県に店を持っていることからいわゆる6次産業から1次産業へ事業を展開したということでした。

那珂川町は、寒冷地のため、これまでうなぎの養殖をするには重油ボイラーを使用するほかなかったようですが、お金がかかってしまうために、実現ができませんでした。

そこで、ボイラーの燃料には製材時に出る廃材を利用して温水を作りだし、エコなうなぎを養殖しています。



木質ボイラー本体



木質焚きボイラー熱利用でうなぎ養殖

木質バイオマス発電 (東北木材協同組合)

東北木材協同組合を視察しました。ここは廃校になった旧馬頭東中学校跡地を活用して、木材加工だけでなく木質バイオマス発電やその熱を利用したマンゴアの温室栽培などを行っています。

ほかにも木の駅プロジェクトとして、地域の廃材や未利用材を持ち込んだ方に地元商店などで使える地域通貨券を発行しています。

さらにこの一連の事業を半径50kmで完結させる「エネルギー

フォーレ50」と銘打ち地域振興プロジェクトとして推進しています。

半径50km圏内で輸送コストに無理なく集材できる小規模発電所と製材所が隣接することで質の良い材から山に捨てられた材までA〜CD材すべての活用が可能となりました。

現在は、年間4万立方メートルの丸太を消費する国産材製材の工場となっています。

木質バイオマスの発電出力は2500キロワット、このうち360キロワットを工場で使い、残りを売電しています。発電量は、一般家庭約5000戸分に相当し、年5億円の売電を目標にしています。



製材工場（廃校の跡地に）

まとめ

那珂川町は当町と類似して農林業を基幹産業とした中山間地であり、参考になる事例が沢山ありました。それと同時に、どの施設も初期投資やランニングコストなど難しい面も出てきました。

また廃校利用では、地元住民と参入業者の関係が良好でないとの悩みもあるようです。

しかし、民間参入が成功すれば、地域への活性化の効果も見込めると考えられるので、当町でも今後は国庫補助や民間業者の受け入れなど検討しながら地方創生に取り組んでいきたいと考えます。



木質バイオマス発電所